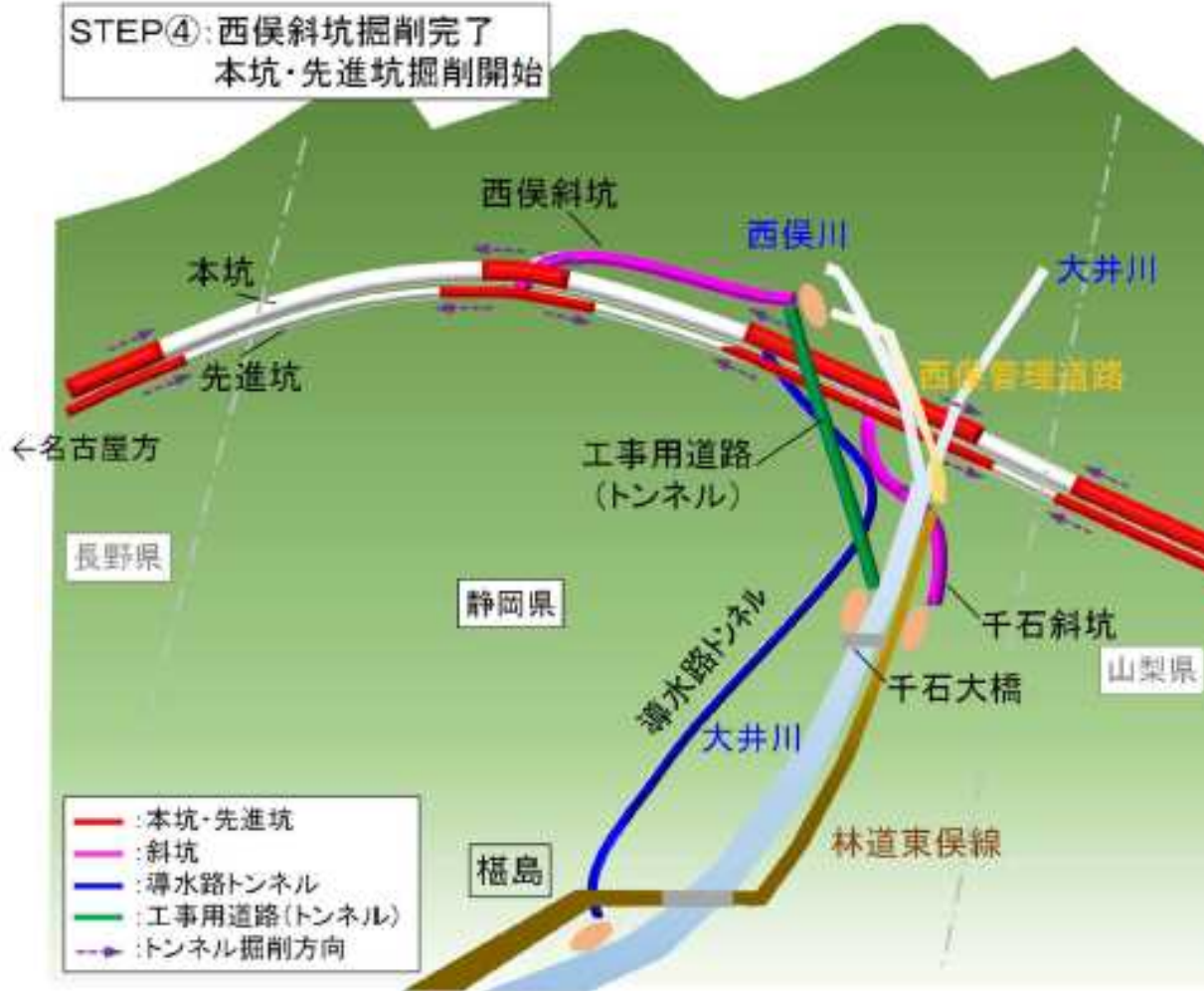


① リニア中央新幹線南アルプストンネル工事静岡工区の順序

STEP④: 西俣斜坑掘削完了
本坑・先進坑掘削開始



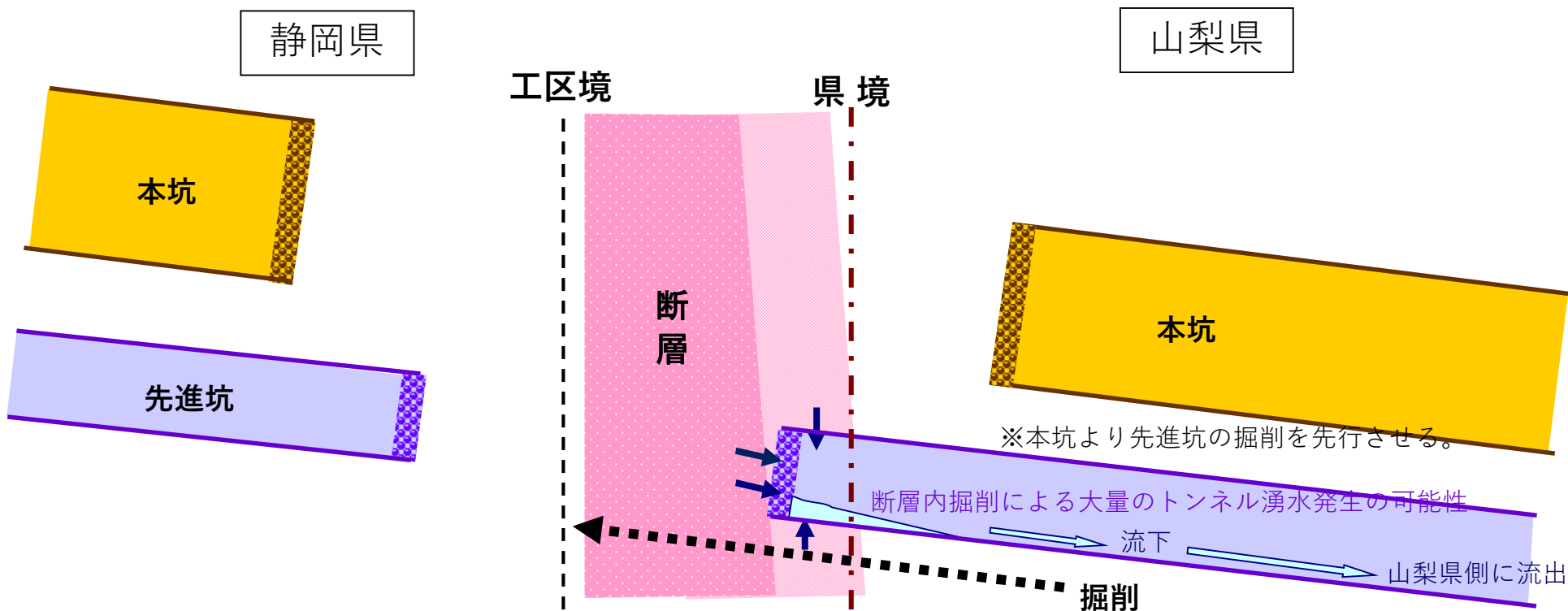
段階	工事用トンネル	千石斜坑	西俣斜坑	導水路トンネル	先進坑	本坑
延長断面積	L=3,930m A=45m ²	L=3,070m A=80m ²	L=3,490m A=80m ²	L=11,400m A=10~20m ²	L=8,940m A=35m ²	L=8,940m A=100m ²
STEP① 掘削開始	開始	開始	開始	開始	未	未
STEP② 工事用トンネル掘削完了	完了	掘削中	掘削中	掘削中	未	未
STEP③ 千石斜坑掘削完了		完了	掘削中	掘削中	開始	開始
STEP④ 西俣斜坑導水路トンネル掘削完了			完了	完了	掘削中	掘削中
STEP⑤ 先進坑・本坑掘削完了					完了	完了

図：第9回生物多様性部会専門部会（2022年3月24日）におけるJR東海資料より引用
表はJR東海資料を基に静岡県作成

② 工事中の湧水の静岡県外への流出

J R東海は、2019年8月の専門部会で「**先進坑がつながるまでの工事期間中、山梨・長野両県へトンネル湧水が流出する**」と表明し、**全量が大井川水系に戻せない期間がある**ことを明らかにした。（山梨県側で約10ヶ月と想定）

⇒大井川水系内にある断層帯を山梨県側から掘り進めると、大量のトンネル湧水が流域外（山梨県側）へ流出し、大井川水系内の水量が減少する可能性がある。



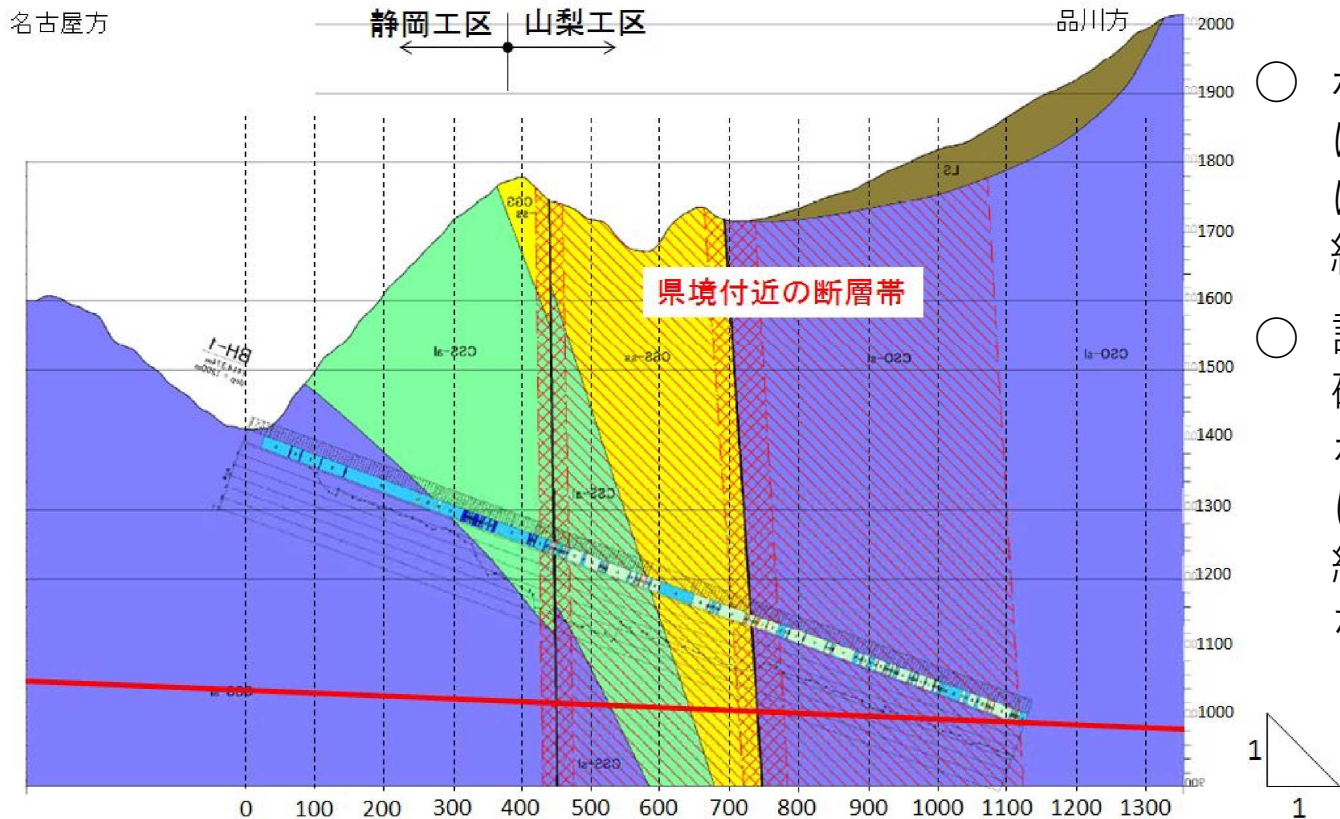
※山梨県側から県境を越えて、静岡県側に掘削を進め、工区境で静岡工区の先進坑と接続する。

※そのためには、山梨工区先進坑が県境を越えるときには、静岡工区先進坑が工区境近くまで来ている必要がある。

①静岡工区先進坑が工区境に近づいていないと、先進坑がつながるまでの期間が延び、流出量が増加するリスクがある。

②静岡工区先進坑が工区境近くまでくるためには、数年単位の時間を要すると考えられる。[第10回県専門部会におけるJ R東海発言]

③ J R 東海が実施した静岡・山梨県境付近断層帯の調査結果

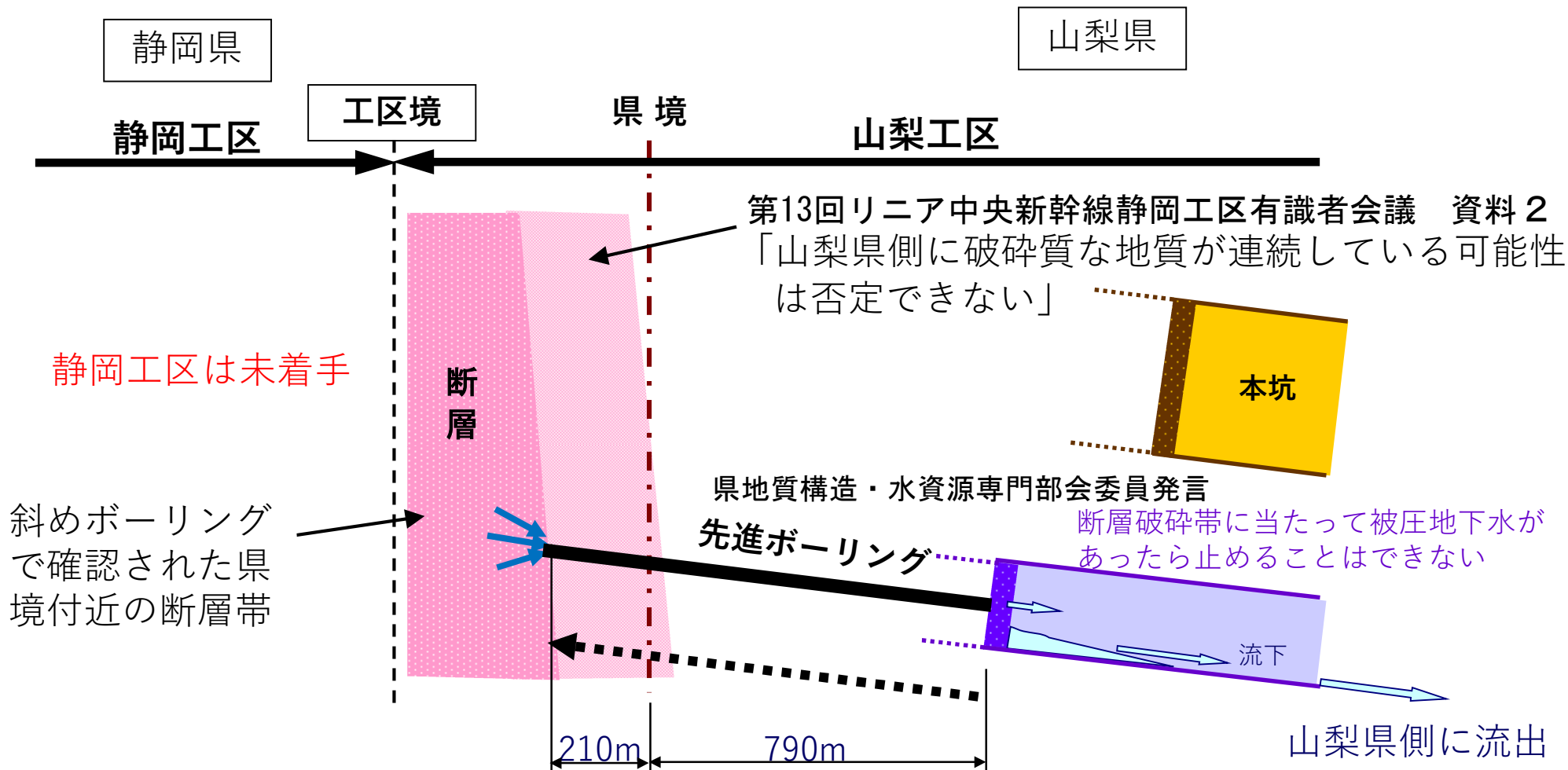


- ボーリング深度360m以深において、口元湧水量が急激に増加し、最大口元湧水量が約2,600L/分を記録。
- 調査区間より山梨側の地質の確認はできていない。よって、ボーリング調査結果よりさらに山梨側へ破碎質な地質が連続している可能性は否定できない。

図 10-10 ボーリング調査結果（県境付近の断層帯）

出典：第13回リニア中央新幹線静岡工区有識者会議資料2【別冊】大井川水資源利用への影響の回避・低減に向けた取組み（案）別10-21ページ

④ 高速長尺先進ボーリングの湧水の静岡県外への流出



第10回静岡県地質構造・水資源専門部会 JR東海説明

「調査終了後、ボーリング孔口にバルブを設置し湧水の流出を止められる構造といたしますが、基本的には山梨県内における工事の安全を考慮し、その量を継続的に測定の上で湧水を流す計画です。」

「断層帯まで多分行けないと思っていました、だけど1000m級のボーリングをやるので、そこまでの調査をやらせてもらいたい」